

奈良教育大学特別支援教育研究センター NEWS LETTER

TEL&FAX 0742-27-9314
<http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/>
 E-mail : tokubetsu@nara-edu.ac.jp

スタッフだより

式部陽子（センター特任准教授）

これからもお子さんたちの素敵などころをたくさん見つけて、ご家族や先生方と一緒に子どもさんへのサポートを考えていきたいと思ひます。

小枝久美子（センター臨床心理士）

たくさんの保護者の方やお子さんとの出会いをありがたく思っています。今後もお子さんの良いところを伸ばせるよう支援していきたいです。

特別支援教育研究センター

センター長：根来秀樹（児童精神科医）

特任准教授：式部陽子（臨床心理士）

特任講師：富井奈菜実

相談員：小枝久美子（臨床心理士）

田中裕二（作業療法士）

教育学部兼務教員：大西貴子（臨床心理士）

越野和之

教職大学院兼務教員：玉村公二彦

木下理恵

事務：大久保直子・武藤葉子



今年度もよろしくお祈ひします！

ごあいさつ

「特別支援教育研究センター」の源流と『トミーの夕焼け』

奈良教育大学 教職開発講座（教職大学院）教授 玉村公二彦

本学に着任して10年目の1998年に公開された映画が、山田洋次の『学校Ⅲ』だった。山田洋次の学校シリーズは、それ以前に、夜間中学校、そして養護学校を描いてきた。そのシリーズの第三弾の映画で、職業訓練校を舞台にした映画だった。リストラされた自閉症の息子をもつシングルマザーを、大竹しのぶが好演した。バブル崩壊後の失われた10年、リストラ、倒産などの社会の状況のなかで女性の自立と学び、自閉症のある息子との生活、学ぶ仲間との関係、病気や将来への不安など、職業訓練校に学ぶ主人公、そしてその学びの仲間たちの生き様や揺れが描かれている。

公開当時、障害児学教室の先生方の間でも話題になったのだが、それは、『学校Ⅲ』の原作になった『トミーの夕焼け』（1997年）に関わっていた。『トミーの夕焼け』は、自閉症の息子の視点から母親の姿が描かれる短編集だが、その作者・鶴島緋紗子さんと本学の特別支援教育の源流となった故柳川光章先生の関わりのことだった。柳川先生は、臨床心理学の立場から1966年の養護学校教員養成課程の設置の中心を担われた。学生指導を含めて教育相談や「治療教室」などでの療育活動、僻地での調査活動など様々な活動を行っていった。『トミーの夕焼け』作者とはその中での出会いだったのだろう。柳川先生は、研究や教育、相談活動で自閉症（当時「情緒障害」）にこだわっていたが、作者との関係も自閉症の子どもの養育や教育に関わるものだったのだろうと想像される。

柳川先生が推進された本学の障害児学教室の構想や足跡にもその思いが感じ取られる。教室では概算要求で、附属養護学校の設置が準備されたのだが、残念ながら諸般の事情で実現がなされなかった。情緒障害教育特別専攻科の設置なども要求されたのだが、これも柳川先生が現職の間には実現しなかった。その中で、保護者や現場の先生方の教育相談、療育教室などの取り組みを継承し、発展させるべく構想されたのが「障害児教育実践研究センター」だった。しかし、これもまた国立大学時代には実現されず、大学が法人化されて以降、特殊教育から特別支援教育への転換のなかでようやく「特別支援教育研究センター」として設置されたのだ。

本学に障害児教育の教員養成の組織的な取り組みがはじまって、一昨年50周年の行事を行うことができた。そして、2017年には特別支援教育研究センターが設置されて10周年だった。これまで、様々な思いが込められ、様々なエピソードが織りなされた歴史があった。教員養成と教育相談・支援などセンターと教室は、次の10年の最初の一步を本年度歩み始めたことになる。また今後新たな歴史を紡いでいくことになる。これからも、多くの皆さんとともに力強く歩んでいくことを期するとともに、関係者の方々のご指導ご鞭撻をお願いする次第である。

【平成30年度開催予定のプログラム】

- 公開講座
- 夏休み!!宿題おたすけプロジェクト2018 など

随時ホームページにてご案内します

☞<http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/>

平成29年度の取り組み

教育相談・発達相談

相談総数	407 件	内訳			
		発達相談	380件	／教育相談	27件

保護者・子ども向けプログラム

寺子屋	のべ人数	81	名		
夏休み!!宿題おたすけプロジェクト (2日間)	小学生	のべ22	名	保護者	のべ20
	学生	のべ34	名	教員	のべ8

教師向けプログラム

TT アドバンス・クラス 「基礎から学ぶ応用行動分析講座」(7回実施)	小学校教諭	のべ3	名
	教職大学院現職教員	のべ58	名

研修会

【公開講座】

5/20「自閉スペクトラム症をもつ青年が語る—工夫して生きるということ—」

講演「発達障害の理解と支援のために」 講師：根来秀樹

対談「ASDをもつ青年が語る」 インタビュアー：大西貴子

7/25「ライフサイクルからみた発達障害」 講師：根来秀樹

センターからのお知らせ

「こんな待ってた!」「ありそうでなかった!」

特支センターに、またもやかゆいところに手が届く新企画が登場! 鉄オタ倶楽部、始動します!!

詳しくは「特別支援教育研究センター 鉄オタ」で検索!!



平成29年度活動報告

冬ワークショップ

「不思議な楽器・水カンリンバ」

自閉スペクトラム症の子どもたちが不思議と落ち着く魔法の楽器、水カンリンバを作りたい! ということで、考案者の丸山祐一郎氏・こやまはるこ氏をお迎えした制作系ワークショップを開催しました。たくさんの親子や学生も参加して空き缶を切ったり曲げたり、最後は和紙を使って思い思いのデコレーションを施したステキなオリジナル水カンリンバができあがりました。スタッフは空き缶集めにてんやわんやの数ヶ月でしたが、制作に没頭することでみんな癒やされました。



夏休み!!宿題おたすけプロジェクト

発達障害のある子どもたちを対象とした学習支援プログラムを実施。3日間頑張る予定でしたが、1日目はなんと台風で中止に…。やる気を失いかけたかと思いきや、残り2日間で山盛りの宿題を終わらせることができました! 教員を目指す学生や意欲ある現職教員「おたすけ隊」のパワー(専門性)も輝いており、リコーダー練習、お弁当袋作り、UFOキャッチャー作りなどなど、一人では大変な宿題にも楽しみながら取り組んでいました。一方で保護者はペアレント・トレーニングを受講しました。

「子どもの学習支援」、「ペアレント・トレーニング」、「学生や現職教員が発達障害のある子どもたちへの支援方法を学ぶ研修」を兼ねた事業となりました。



放課後学習支援「寺子屋」

学習困難のある子どもを対象とした学習支援を行なっています。月2回、教員を目指す学生が一人一人の特性に応じて学習を支援しています。年度の最後には学生の専修を生かした習字大会も開催されました。好きなものを字や絵で表現したのですが、なかなか味のある作品となりました! 今は学習を頑張って、奈良公園のシカに会いに行くことがみんなの目標。がんばりポイントを貯めています。



TTアドバンス・クラス 「教師のための応用行動分析講座」

昨年度まで実施していたティーチャー・トレーニングのアドバンス・クラスです。初歩的なプログラムを教わるだけでなく、自分たちで個々に応じた介入プログラムを考えられるぐらいになりたい! という、先生の熱い要望にお応えして、トレーニングの基礎にある応用行動分析学をしっかり学べる夜間講座を始めました。

小学校、中学校、高校、養護学校というさまざまなフィールドからデキル教師が集まり、テキストの講読や発表を通してABAについての理解を深めています。今年度はゲスト講師をお招きしてのスペシャル講座も予定しています。

【お問い合わせ先】

奈良教育大学特別支援教育研究センター

住所：〒630-8528 奈良市高畑町(奈良教育大学高畑キャンパス新館1号棟 1階)

TEL & FAX：0742-27-9314 *火・水・木(祝日を除く) 午前10時～午後1時/午後2時～午後4時

メールアドレス(事務)：tokubetsu@nara-edu.ac.jp